



奈良県立医科大学

平成25年2月19日

## 『女性研究者学術研究奨励賞』第2回受賞者の決定について

奈良県立医科大学では、従来から女性研究者が研究を継続・発展させ、キャリアアップを図ることができるよう、女性研究者の研究支援等に取り組んでまいりました。

平成23年2月には、その取組を積極的に実行していく組織として、女性研究者支援センター『まほろば』を設置し、さらに、文部科学省の科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業」の採択を受け、同センターを中心として、女性研究者に対する様々な支援活動に本格的に取り組んでいます。

さらに、本学独自の取組として、優れた研究成果を挙げた本学の女性研究者を顕彰する「女性研究者学術研究奨励賞」を昨年度創設し、第2回女性研究者学術研究奨励賞の受賞者をこの度、決定しました。

つきましては、下記のとおり表彰式及び受賞者による講演会を開催しますので、お知らせいたします。

### 記

- 1 日 時 平成25年2月20日（水）16:30～17:00
- 2 場 所 奈良県立医科大学 いつかし 巖 櫃 会館3階 大ホール  
奈良県橿原市四条町840番地
- 3 プログラム 16:30～16:35 喜多女性研究者支援センター長（副学長）あいさつ  
16:35～17:00 表彰式・受賞者講演会 表彰状、副賞及び記念品を授与  
※引き続き、17:00～女性研究者支援センター主催による「ハラスメント防止研修会」を開催します。
- 4 女性研究者学術研究奨励賞の概要
  - ①目的 優れた研究成果を挙げた女性研究者を顕彰することにより、その研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及び男女共同参画の促進等に資する。
  - ②対象者 本学の医学科・看護学科の教員（教授を除く教員で、寄附講座教員及び特任教員を含む。）、博士研究員、大学院生又は医員で、学術上優れた研究成果を挙げた女性研究者
  - ③選考 学内募集を行い、選考委員会において原則1名を選考。
  - ④表彰 表彰状を授与するほか、副賞として研究奨励金及び記念品を授与。

## 5 受賞の対象となった研究の概要

□テーマ：「神経変性疾患の診断およびリスクについての基礎的臨床的研究」

□期間：1986年～現在に至る

□概要：当研究者は奈良医大に赴任する以前より、アルツハイマー病(AD)における髄液中タウやアミロイドβ蛋白(Aβ)測定による診断法の確立やラット脳初代培養細胞におけるAβの細胞毒性についての研究に携わり、1998年に当学に赴任して以降は神経内科診療を行う傍ら、それまでの基礎的研究の経験を生かし、臨床からの観点から研究を続けている。2005年に本邦で新たにメタボリック症候群(MetS)の診断基準が制定されて以降、神経変性疾患における同症候群との関連を検討している。以下はMetSのADに及ぼす影響と治療に関する臨床研究を紹介する。

□目的：近年ADの非遺伝の危険因子として、肥満やMetSが注目されている。MetSでは、内臓脂肪の蓄積により増加したインスリンが脳内でのAβ分解を競合的に阻害し、また炎症性サイトカインがAβや異常リン酸化タウの凝集を促進する可能性が示唆されている。一方、ACE阻害薬やARB等のレニンアンギオテンシン系阻害薬(RASB)は、脳内のアンギオテンシンIIを減少させ神経細胞からのアセチルコリン分泌を促進し認知症予防や進行抑制する可能性が示唆されていることから、AD患者におけるMetSの頻度、内臓脂肪面積(VFA)、RASBの及ぼす影響について検討した。

□研究手法：AD患者78名、対照者106名を対象に、本邦診断基準により各因子異常およびMetSの有無と内服薬を調査し、空腹時インスリンを測定しインスリン抵抗性指数を算出した。同意の得られた症例ではCT法によるVFA測定した。認知機能の評価は長谷川式簡易認知症スケール(HDS)、ミニメンタル・ステイトメント・テスト(MMSE)で行い、経過を追いADの進行を評価した。AD進行に対するRASBの影響をみるため、RASB内服群、非内服群で比較した。

□研究内容：AD群ではMetSおよび内臓脂肪蓄積者が対照群に比べ有意に高く、更にAD群の中で内臓脂肪蓄積群は非蓄積群に比べ有意にADの進行が早いという結果が得られ、ADの進行には内臓脂肪蓄積がリスクとなる可能性が示唆された。インスリンは内臓脂肪蓄積群では有意に高値を示し、血中インスリン値と関係する可能性が考えられた。RASB内服群では他群に比べHDS/年が有意に小さく、RASBが進行を抑制する可能性が考えられた。RASB内服群では他群に比べ、IRIが有意に低値、HOMA-IRも低値の傾向を示し、RASBのインスリン抵抗性への影響を反映している可能性があると考えられた。

□今後の展望：来るべき超高齢化社会において認知症は社会的問題として重要な位置を占めると予測されるが、いまだ病因が十分に解明されていないADにおいて、既に確立された内服薬の治療への可能性を示唆出来た事は非常に重要である。今後とも実地臨床に即した検討の継続が期待される。

## 6 受賞者プロフィール



平成 25 年 2 月現在

ふりがな 氏名	ふりや よしこ 降矢 芳子	年齢	51歳	性別	女
所属所名	神経内科学講座	職名	講師		
学歴 研究歴 職歴	昭和61年3月 東京女子医科大学卒業 昭和61年5月 東京女子医科大学病院 脳神経センター内科 入局 平成2年3月 東京女子医科大学大学院修了 平成2年4月 東京女子医科大学病院 脳神経センター内科 助手 平成2年6月 至誠会第二病院神経内科 医員 平成3年6月 東京女子医科大学病院 脳神経センター内科 助手 (上記在職中の国内・海外留学) (平成4年6月～4年8月) 東京大学脳研究施設 (病理部門) (平成4年9月～7年3月) 東京都精神医学総合研究所 (分子生物部門) (平成7年5月～8年7月) 米国Pennsylvania大学 (実験医学病理学研究部門) 平成8年12月 奈良県立医科大学附属病院神経内科 非常勤医 平成10年1月 平井病院神経内科 医長 平成14年1月 奈良県立医科大学神経内科学講座 講師 現在に至る				
免許	医師免許	取得年月日	昭和62年 1月 31日		
学位	医学博士 (東京女子医科大学)	取得年月日	平成 4年 2月 21日		
その他の資格	日本内科学会認定医 日本神経学会専門医 日本リハビリテーション医学会専門医	取得年月日	平成 2年 7月 15日 平成 4年 4月 1日 平成22年 9月 15日		
賞罰	なし				

(参考) 用語の説明

タウ : 脳に含まれる微小管結合の蛋白質

アミロイド : ある病的な条件下で血管や他の組織に沈着する繊維状蛋白質

サイトカイン : 抗原に曝された時、ある細胞群から放出され、細胞間伝達物質として働く非抗体性蛋白質細胞制御因子